

益田川における石倉カゴを用いた生物資源量モニタリング調査
第一回引き揚げ調査報告書

益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織

1. 概要

調査日時：平成 28 年 8 月 27 日 13:00-17:00

調査場所：益田川津村橋上流

調査実施者：佐々木隆志、齋藤遼、吉中力、豊田武雄、石川智也、下瀬敏樹、広兼義明（以上アンダンテ 21）

調査補助者：柵瀬信夫（鹿島建設）、公募による市民 9 名、島根県水産課職員、益田市林業水産課職員

採取個体数：魚類、甲殻類等水生生物 約 200 個体（計測後放流）

調査内容：7 月 15 日に設置した石倉カゴを引き揚げ、内容生物を調べた。ニホンウナギについては計測後 PIT タグを体内に埋め込み放流した。

2. 調査結果

2.1. 内容生物の種類と個体数

内容生物の種類ごとの個体数をカウントした後放流した。結果を表 1 に示す。

表 1 第一回石倉カゴ引揚げ結果

種類名	ウナギ	ハゼ類	他魚類	モクズガニ	他カニ類	テナガエビ	他エビ類	多毛類	昆虫類	貝類	その他
個体数	2	14	1	5	0	31	多数	0	2	14	0
内訳等		ドンコ3 ヌマチチブ10	ギギ1				ヤマトヌマエビなど		ヒラタカゲロウ2	マシジミ1 チリメンカワニナ2 イシマキガイ2 カワニナ9	

2.2. ウナギの標識放流

ウナギの全長、胴回り寸法、重量を測定した後、PIT タグを肛門上付近に埋め込んで放流した。ウナギの個体値と標識番号を表 2 に示す。

表 2 ウナギの個体値と標識番号

No.	Tag No.	全長 (mm)	胴回り (mm)	重量 (g)
1	08086055	520	80	180
2	08086042	494	79	170

添付資料

1. 作業写真



益田川 籠引き上げ調査

NPOなど 生物70匹を確認

益田市のNPO法人

アンダンテ21や市民らでつくる「益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織」が27日、同市昭和町の益田川に設置していた「石倉カゴ」を引き上げた。石を詰めた籠は生物のすみかになっており、定期的引き上げ、種類や量の変化を調べていく。

川に石を積む伝統の石倉漁と護岸などに使う蛇籠を組み合わせた技術で7月15日、河口から約3・5キロに沈められた。この日は約20人が参加し、鹿島（東京）環境本部の柵瀬信夫さ



網で覆った石倉カゴを川から引き上げる参加者

ん(67)の指導で、生物が逃げないように籠(縦横1メートル、高さ0・5メートル)を網で覆い、石を除いて陸に運んだ。テナガエビやモクスガニ、ギギ、ヌマチチブ、カワニナ、マシジ

ミなど約70匹が入っており、物差しを入れた容器に移して写真撮影。資源量不足が問題になっているウナギ2匹は体長や胴回りなどを計測してタグを付けた。いずれも記録を取

った後、川に戻した。10月中旬に2回目を実施する。同法人の斎藤遼さん(25)は「どんな生物がどれぐらいいるか、データを示し、身近な川に関心を持ってもらうきっかけにしたい」と話していた。(江川裕介)